

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成 23 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており、毎週医師、看護師が来られ利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみ事をゆったり支援するよう心がけている。地域の盆踊りや敬老会などに参加し、地元の幼稚園児や小学生と行き来する機会があり、また中学生の福祉体験実習や県社協が主催するボランティアも受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医師である代表者を中心に、管理者と職員は利用者の健康管理について特に気を配り、協力医療機関と連携しながら重度化や終末期のケアに取り組んでいる。利用者の高齢化により、ますます医療との連携が重要となっており、研修等に積極的に参加し質の向上を図りたいと意欲的である。今まで培ってきた地域との交流を継続しながら、豊かな自然と穏やかな環境の中で、利用者がのんびり、ゆったり、やすらかに生活できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)

氏名 井上 博子

評価完了日 平成 23 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基いてミーティングや申し送り時に話し合い、具体的なケアについて意見統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 「のんびり ゆったり やすらげる」「一人一人の個性を大切に」を理念に掲げ、2ユニット共通の理念として職員にも浸透し実践されている。管理者は10周年を機に、職員全員が新たな気持ちで取り組めるような理念に変更するよう計画をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の盆踊り、敬老会、奉仕活動に参加している。また、地域の幼稚園、小学校との交流会、中学生の社会福祉体験実習、県社協のボランティア等の受入れもしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の日々の様子や事業所の行事等を、やすらぎ新聞にて地区に回覧したり、公民館に配布し広報活動を行っている。近くの河川の清掃活動等の地域行事にも継続して参加し、コミュニケーションを図っている。また、地域のサロンに参加できるよう働きかける等、交流を広げる努力をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 年2回広報を作り、地区長さんに回覧で回して頂き、やすらぎの家でどんなことをしているか知って頂くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者さんや職員も参加して、運営推進会議で利用者さんの状況や、今取り組んでいることを報告したり、話し合い意見や助言を頂いている。委員の方に議事録を郵送している。また、掲示している。</p> <p>(外部評価) 職員が会議に参加し利用者の状況を具体的に報告したり、意見交換することで職員の意識向上が図られている。市の担当者、公民館長や区長、小学校長、他のグループホームの管理者等に参加してもらって多面からの意見を聞くことができている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 大洲市の主催する会議、研修に参加し意見交換を行っている。又、地域包括支援センターとの交流を図り、ケアの質の向上に努めついる。</p> <p>(外部評価) 市には介護計画書を提出し意見や助言を受けている。管理者は困難事例について、地域包括支援センターに相談し、連携して適切に対応している。在宅サービス担当者会議に参加し情報収集をしている。また、介護相談員からの意見を真摯に受けとめ改善に取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) ベッド柵は最小限必要などところのみ使用している。玄関は自由に出入り出来るように開放している。また、必要時はご家族の了解を得て行うようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎年研修を受け、職員全員で話し合う機会を設けている。また、今年度は介護相談員の意見から、職員全員で声かけの仕方やケアについての自己評価を実施し、意識改革に取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で話し合ったり、学ぶ機会を持ち、利用者さんが安全に生活でき、見過ごされることのないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加し、他の職員にも周知出来るようミーティング時に研修内容を発表し、必要性を理解出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点などを尋ね、理解、納得をして頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行ったり、介護相談員さんに毎月来て頂き、意見や要望を聞く機会をもち、運営に反映させている。意見、要望がある時には、ミーティング等で話し合っている。	
			(外部評価) 家族の訪問時、手紙や電話で意見を聞き取る機会を設けている。今年度は事業所の行事等についてのアンケートを実施することにより、家族の要望や意見を把握し運営に反映させた。今後も、定期的にアンケートを実施し家族に喜んでもらえるよう取り組んでいきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティング等に理事長に出席して頂き、職員の意見などを聞く機会を設けたり、管理者はその都度提案などを聞き反映させている。</p> <p>(外部評価) 年1回職員会議に代表者も出席し、直接職員の意見を聞く機会を設けている。夜勤人員が増員されたり、待遇が改善される等、出された意見は運営に反映されている。また、管理者は研修の参加や発表の機会を設け、職員の人材育成に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の実績や勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 就業時には、理事長のオリエンテーションまた一人ひとりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける機会を確保し、職員を育てるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や大洲市が開催する連絡会に参加する機会をつくり、相互訪問などの活動を通じサービスの質の向上に努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者本人の話を傾聴し、安心を確保出来るよう信頼関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族のご苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで信頼関係を得るように心がけ、求めていることに応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人や家族の思い、状況を確認し、アセスメント調査を行い、課題を明らかにして、より安心して過ごせるようケアサービスに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方が来訪された時に、日々の暮らしの出来事や気付いたことをご家族にお話しし、本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある人が面会に来られやすい雰囲気を作っている。また、ご家族や友人、知人の方が行事に参加出来るよう声かけし、関係が築けるよう支援している。 (外部評価) 入居当初は茶道を続けていたり、仕事の関係者が訪ねて来たりと馴染みの関係はあったが、徐々に少なくなる傾向にある。そのため、可能な限り馴染みの関係が途切れないよう努め、受診時には顔なじみの方とお話したりと地域特有の人間関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中、体調が悪くない方以外は食堂に集まり、色々なレクリエーションをしたり、テレビを見たりして利用者さん同士で関わりをもって頂くようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じ連絡を取り合い相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの気持ちを大切に声かけをし、優しい気持ちで接する。本人のペースでのんびりと生活が出来るよう援助している。 (外部評価) 介護計画書の更新時に、利用者のできることできないこと等アセスメントを行い把握に努めている。カンファレンスで介護記録の内容を確認したり、職員間で情報交換し、利用者本位の計画になるように検討している。家族には訪問時や文書を送付する等して、意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのカルテを見て、昔の生活の話聞き馴染みの暮らしが出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や表情が違ってないか、気を付けて見守るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、本人の希望や家族の要望を来訪時や電話で聞き、スタッフの要望も踏まえて毎月1回のカンファレンスでそれぞれの意見・アイデアを反映し、介護計画書を作成している。 (外部評価) 介護計画は担当者を中心に、全職員が関わって作成している。実施状況と評価は記録し、目標期間に合わせて見直しをしている。医療面や生活面等多角的に検討し、利用者の生活が少しでも豊かなものになるよう心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表を作り、食事、水分、排泄等の状況を把握したり、何をされていたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、計画の見直しをしている。状態に応じて、個々で健康チェック表を行ったりしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助や利用者の要望に応じて、買物や物療などの外出支援やサービスの多機能化に柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公民館や幼稚園の行事、同じ地域の施設の方との交流会などに参加し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 医療連携体制をとっているため、緊急時などすぐに連 絡が取れるようにしている。毎週水曜日に医師、看護 師に来て頂き、健康管理をしている。また、毎年の健 康診断と毎月定期的検査などを行っている。</p> <p>(外部評価) 代表者が医師であり医療連携体制が整えられており、 利用者や家族は安心して生活することができる。毎 日、利用者の健康管理を行い、必要な利用者にはリハ ビリを行う等、適切な支援を行っている。また、他の 医療機関の受診も職員が支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 体調管理をしている中で異変に気付いた時には、看護 師に相談し、適切な受診が受けられるように連携を とっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した時には、安心して治療出来るよう 病院関係者に情報提供を行ったりし、情報交換や相談 に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に本人、ご家族に看取りの指針を説明し、同意 書に記入して頂いている。また、重度化した場合は主 治医や本人、ご家族と話し合いをし、こまめに連絡を取 り合いながらチームで取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 医療連携体制を整備しターミナルケアに取り組んでい る。代表者である医師とは十分な連絡を取り合い情報 を共有している。介護や看護職員が協働し利用者本位 のターミナルケアが行えるよう努めている。</p>	<p>職員の理解や意識を高めるために継続して研修等行 い、職員一人ひとりがレベルアップし、利用者や家族 が安心して納得した最期を迎えられるよう、今後の取 組みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えマニュアルを作成し、毎年2回消防署職員に来て頂き、避難訓練を行っている。応急処置の方法など看護師に教えてもらっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作成し、毎年2回消防署職員に来て頂き、避難訓練を行っている。また、地震や水害などの自主訓練を行う予定である。毎年1回地域の防災訓練に参加している。 (外部評価) 地域の防災訓練に参加し、近所の方と連絡網の作成を検討している。風水害や原発事故等も想定しての避難訓練の実施について、運営推進会議の議題として取り上げ話し合っている。また、行方が分からなくなった利用者の捜査も依頼するため名簿の作成等準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分も言われたら嫌なことは言わないように、しないようにし一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応をするよう心がけている。 (外部評価) 介護相談員の報告を受け、声かけについて自己評価を行いその後、全職員で話し合い「～さん」と呼ぶよう統一している。職員一人ひとりが自覚を持って業務にあたるよう再確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活で利用者が望まれていることを出来るだけ叶えるようにしている。本人の意思決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にし、ゆったりとした時間を過ごして頂くよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前されていたことが継続出来るよう、マニキュアやお化粧品などをしたり、その日着る服を選んだりして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者が食べたい物や食べやすい食材を取り入れ、見た目も重視し出来ることを一緒にして頂いている。	
			(外部評価) 2ユニット分の食事の準備は調理担当の職員が行っている。非常勤の管理栄養士が毎月のメニューを作成し、栄養面でのサポートをしている。食材は配達してもらっているが、利用者と一緒に買い物に出かけることもある。おやつは利用者と一緒にどら焼きやおはぎ等作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が少ない方には食べそうな物を時間をずらして食べて頂いたり、水分量が少ない方にはお茶ゼリーを勧めたりして一日を通じて確保出来るように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔が保てるよう本人に合った口腔ケアを行っている。また、義歯は定期的にポリドントにつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべく尿取りパットや紙パンツを使用しないように、声かけをしてトイレで排泄できるように心がけている。夜間、自分で排泄は出来るが、間に合わない方には、ポータブルを設置している。	
			(外部評価) 利用者の状態を把握し、日中はトイレへ誘導している。排泄の訴えにはその都度対応している。夜間は利用者の状態によりおむつを使用したり、ポータブルトイレを設置する等、安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を取ってもらうよう声かけや介助を行ったり、便の出にくい方には牛乳やヨーグルトなどの乳製品や食物繊維などを取ってもらうようにしている。朝の清掃時に掃除を手伝ってもらったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や気分に合わせて、入浴を実施している。訴えなどに合わせて楽しんで入浴出来るよう工夫をしている。入浴を嫌がられる方には、毎日声かけを行い、気分良く入浴してもらえるよう心がけている。	
			(外部評価) 週3～4回程度の頻度で入浴を支援している。気持ちよく入浴できるよう声かけを行ったり、希望に応じて時間を変更したりしている。また、利用者の状態に合わせて足浴や清拭も行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり体調などを考慮し、無理のないソファや自室で休んで頂くよう、声かけや目配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 頓服などのお薬は別に保管し、通常服用されているお薬も服薬ミスがないよう保管している。また、処方箋が確認出来るよう日々の記録に綴じ、どのようなお薬が服用されているかなど理解し、症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 退屈しないよう、残された機能を少しでも伸ばせるよう、支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良く人数的に余裕があれば、気分転換に散歩など行くように努めている。	
			(外部評価) 事業所の周辺は田園地帯で交通量も少なく、日常的に散歩することができる。協力医療機関へ定期的にリハビリに出かけており、顔見知りの方との交流の機会となっている。また、介護タクシー等も利用し、年間を通じて外出行事を計画する等、支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じ、お金を所持して頂いたり、買物を楽しんで頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 母の日などにお花が届けば、お礼の電話をしたりお手紙を書いたりし、大切な方との繋がりを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間には畳の間、テレビなどを配置し、行事の写真、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせる空間になっている。	
			(外部評価) 木造平屋の建物で日当たりがよく、どの部屋からも季節を感じる事ができる。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者同志の交流が自然にできている。脱衣室やトイレも介助に十分な広さがある。畳の居間も利用者の休息の場に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ、テレビ、カセットを置き、好きな場所で仲良し同士が過ごしたり、1人になりたい時には、居室に戻ったりし過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使い慣れた家具、日用品、布団などを使って頂き安心して過ごせる場所になっている。	
			(外部評価) 各居室にベッドや整理ダンスは備え付けてあるが、名前の入った表札や個人の写真、小物を自由に持ち込み、利用者一人ひとりの好みに合った居心地のよい居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの分かることや、力を活かして見守り支援し、必要以上の援助はしないように心がけている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成 23 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており毎週医師、看護師が来られ利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみごとをゆったり支援するよう心がけている。地域の盆踊りや、敬老会などに参加し、地元の幼稚園や小学生と行き来する機会があり、また中学生の福祉体験実習や県社協が主催するボランティアも受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医師である代表者を中心に、管理者と職員は利用者の健康管理について特に気を配り、協力医療機関と連携しながら重度化や終末期のケアに取り組んでいる。利用者の高齢化により、ますます医療との連携が重要となっており、研修等に積極的に参加し質の向上を図りたいと意欲的である。今まで培ってきた地域との交流を継続しながら、豊かな自然と穏やかな環境の中で、利用者がのんびり、ゆったり、やすらかに生活できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 井上 博子

評価完了日 平成 23 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各棟、スタッフルームに利用者を書いて頂いた理念、ケア理念を掲示し、理念を共有し実践に繋げるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 「のんびり ゆったり やすらげる」「一人一人の個性を大切に」を理念に掲げ、2ユニット共通の理念として職員にも浸透し実践されている。管理者は10周年を機に、職員全員が新たな気持ちで取り組めるような理念に変更するよう計画をしている。</p>	地域性や環境に合った理念を共有し実践できているため、理念について管理者や職員で話し合いを行い、新たな理念を掲げサービスの質の向上につながるケアが実践できるよう、今後の取組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の幼稚園、小学校と交流会を行ったり、中学校の福祉体験実習の受け入れをしたりし、日常的に交流している。また、県社協が行っているボランティアの受け入れも行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の日々の様子や事業所の行事等を、やすらぎ新聞にて地区に回覧したり、公民館に配布し広報活動を行っている。近くの河川の清掃活動等の地域行事にも継続して参加し、コミュニケーションを図っている。また、地域のサロンに参加できるよう働きかける等、交流を広げる努力をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に作成している広報を公民館に置かせて頂いたり、地域の回覧版で回して頂いたりしている。また、電話などで相談を受けたりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、日々の活動報告や話し合いを行い、意見、助言などを頂き、サービスの質の向上に活かしている。	職員が運営推進会議に参加し研修報告を行う等、今後の取組みが期待される。また、会議で取り上げられた検討途中の内容については経過報告をする等、継続した会議の運営に努め、サービスの質の向上につながるよう期待したい。
			(外部評価) 職員が会議に参加し利用者の状況を具体的に報告したり、意見交換することで職員の意識向上が図られている。市の担当者、公民館長や区長、小学校長、他のグループホームの管理者等に参加してもらって多面からの意見を聞くことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 大洲市が開催する連絡会に参加し意見交換を行ったり、ケアプランなどについて直接助言を頂いたりし、日頃から連携を密に取っている。	
			(外部評価) 市には介護計画書を提出し意見や助言を受けている。管理者は困難事例について、地域包括支援センターに相談し、連携して適切に対応している。在宅サービス担当者会議に参加し情報収集をしている。また、介護相談員からの意見を真摯に受けとめ改善に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解している。また、日中は玄関を開放したりし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 毎年研修を受け、職員全員で話し合う機会を設けている。また、今年度は介護相談員の意見から、職員全員で声かけの仕方やケアについての自己評価を実施し、意識改革に取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で学ぶ機会を持ち、見過ごされる事がないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修会に参加し、ミーティング内で学ぶ機会を持ち、必要があれば活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点などを尋ね、理解、納得をして頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を行ったり、介護相談員に毎月来て頂き、意見や、要望を聞く機会を持ち、必要であれば、ミーティングなどで話し合い改善に努めている。	
			(外部評価) 家族の訪問時、手紙や電話で意見を聞き取る機会を設けている。今年度は事業所の行事等についてのアンケートを実施することにより、家族の要望や意見を把握し運営に反映させた。今後も、定期的にアンケートを実施し家族に喜んでもらえるよう取り組んでいきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) ミーティングなどに理事長に出席して頂き職員の見 意見を聞く機会を設けたり、管理者はその都度、提案 などを聞き反映させている。 (外部評価) 年1回職員会議に代表者も出席し、直接職員の見 意見を聞く機会を設けている。夜勤人員が増員されたり、待 遇が改善される等、出された意見は運営に反映されて いる。また、管理者は研修の参加や発表の機会を設 け、職員の人材育成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員個々の勤務実績状況を把握し、向上心を持って働 けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 就業の際には、理事長のオリエンテーション、また一 人ひとりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける 機会を確保し、職員を育てるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や大洲市が開催する連 絡会に参加する機会をつくり相互訪問などの活動を通 じサービスの向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人の話を傾聴し、安心を確保出来るよう信頼 関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの経緯や、ご家族の苦労をゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで信頼関係を得るよう心がけ、要望に応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、情報を集めながら本人、家族の意向に基いた支援を見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いを、出来るだけ理解できるように努めながら暮らしの中で、不安、苦しみ、喜びなどを分かち合い共に支えあう関係づくりが出来るよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、日々の出来事や気付いたことを一緒に会話したり、行事などに家族の参加を通じ共に本人を支えられるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が面会しやすい雰囲気作りに気を付けている。また、家族や知人、友人の方への行事の参加をお願いしている。 (外部評価) 入居当初は茶道を続けていたり、仕事の関係者が訪ねて来たりと馴染みの関係はあったが、徐々に少なくなる傾向にある。そのため、可能な限り馴染みの関係が途切れないよう努め、受診時には顔なじみの方とお話したりと地域特有の人間関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が個別性や関係性を理解して強者や弱者が出来ないよう対応している。職員が間に入って話を聞き、より良い関係が築けるよう対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された後も必要な場合は、手紙や電話等で交流もっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、会話や行動、表情などから本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、家族などから情報を得たり、その方の立場に立って、どうして欲しいのか思いをくみ取り、対応に努めている。	
			(外部評価) 介護計画書の更新時に、利用者のできることでできないこと等アセスメントを行い把握に努めている。カンファレンスで介護記録の内容を確認したり、職員間で情報交換し、利用者本位の計画になるように検討している。家族には訪問時や文書を送付する等して、意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を一部取り入れ、本人、家族などより様々な角度から把握に努めている。また、昔の生活を回想してもらえよう、さりげなく会話に取り入れ、安心して生活してもらえよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や顔色が違ってないか、気を付けて見守るようにしている。一日の生活リズムを把握し、言動や表情の変化を見逃さないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者がより良く暮らす為に、本人の希望やご家族の要望を来訪時や電話で聞き、またスタッフの要望も聞き、毎月1回のカンファレンスを行ってきめ細かなケアプランを作成している。様々な方法を試してみて、本人が快適な生活が出来るよう、職員間で情報交換している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は担当者を中心に、全職員が関わって作成している。実施状況と評価は記録し、目標期間に合わせて見直しをしている。医療面や生活面等多角的に検討し、利用者の生活が少しでも豊かなものになるよう心がけている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 健康チェック表を作り、食事、水分、排泄等状況を把握したり、何をされたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、計画の見直しをしている。日々の様子や、心身の状態、ケアの実践、結果など個別に記録をしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人のペース、家族の状況に合わせた対応をし、既存のサービスに捉われない柔軟な支援や、サービスに取り組んでいる。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 個人の暮らしを支えている社会資源を把握し、本人の出来ることを発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。地域、社会との繋がりを大切にし、本人が安心、安全な生活が送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の希望で納得が得られたか、か かりつけ医と事業所の関係を気付きながら、適切な医 療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 代表者が医師であり医療連携体制が整えられており、 利用者や家族は安心して生活することができる。毎 日、利用者の健康管理を行い、必要な利用者にはリハ ビリを行う等、適切な支援を行っている。また、他の 医療機関の受診も職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気付 いたことを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や、看護を受け られるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際、安心して治療出来るように、ま た出来るだけ早期に退院出来るように、病院関係者との 情報交換や相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階 から本人やご家族との話し合いを行い、事業所で出来る ことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係 者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 医療連携体制を整備しターミナルケアに取り組んでい る。代表者である医師とは十分な連絡を取り合い情報 を共有している。介護や看護職員が協働し利用者本位 のターミナルケアが行えるよう努めている。	職員の理解や意識を高めるために継続して研修等行 い、職員一人ひとりがレベルアップし、利用者や家族 が安心して納得した最期を迎えられるよう、今後の取 組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、研修を受講したり、医師、看護師に連絡し指導を受け対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の避難訓練を行い、消火、避難方法を身に付け、2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方との交流をもち、地域の防災訓練も参加している。また、地震や水害などの自主訓練も行っていく予定である。 (外部評価) 地域の防災訓練に参加し、近所の方と連絡網の作成を検討している。風水害や原発事故等も想定しての避難訓練の実施について、運営推進会議の議題として取り上げ話し合っている。また、行方が分からなくなった利用者の捜査も依頼するため名簿の作成等準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に気を付け利用者のプライドを損ねないようにしている。 (外部評価) 介護相談員の報告を受け、声かけについて自己評価を行いその後、全職員で話し合い「～さん」と呼ぶよう統一している。職員一人ひとりが自覚を持って業務にあたるよう再確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が、日常生活の中で本人が希望したり、自己決定が出来るよう声かけ、対応に気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、散歩、買物、喫茶店、ドライブ等希望にそって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせた支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、片付けなど出来ることは手伝って頂き、同じテーブルで楽しく食事が出来るよう、テレビは消し音楽などを流している。	
			(外部評価) 2ユニット分の食事の準備は調理担当の職員が行っている。非常勤の管理栄養士が毎月のメニューを作成し、栄養面でのサポートをしている。食材は配達してもらっているが、利用者と一緒に行き物に出かけることもある。おやつは利用者と一緒にとら焼きやおはぎ等作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士さんに献立を作って頂いている。また、1人ひとりの食事量、水分量を健康チェック表に記入し、一日を通じて確保出来るようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じて、口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間を見ながら、声かけの必要な方には声かけしトイレ誘導を行っている。利用者の方も自らトイレに行きたいと主張されることもある。	
			(外部評価) 利用者の状態を把握し、日中はトイレへ誘導している。排泄の訴えにはその都度対応している。夜間は利用者の状態によりおむつを使用したり、ポータブルトイレを設置する等、安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取の難しい利用者にはお茶ゼリーにしたり、ポカリスエットをゼリーにしたりと工夫して必要に応じて、増やしたり、食物繊維や乳製品を摂取して頂いたりしている。レクレーションをしたり散歩に行ったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人が入浴を希望しない時は無理に勧めたりしないで、時間を置き、再度声かけを行ったりしている。体調に応じて、中止にしたり清拭にしたりしている。	
			(外部評価) 週3～4回程度の頻度で入浴を支援している。気持ちよく入浴できるよう声かけを行ったり、希望に応じて時間を変更したりしている。また、利用者の状態に合わせて足浴や清拭も行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 椅子に長時間座ることのないように、ソファに移動したり、こたつで横になってもらったり、体調がすぐれない方は、自室で横になって休んでもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの用法や用量について理解し、名前と顔を確認した上で正しく服薬して頂くよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) いつでも、散歩や気晴らしが出来るように玄関を開放している。一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、一人ひとりの体調に合わせて散歩、ドライブ等に出掛けている。	
			(外部評価) 事業所の周辺は田園地帯で交通量も少なく、日常的に散歩することができる。協力医療機関へ定期的にリハビリに出かけており、顔見知りの方との交流の機会となっている。また、介護タクシー等も利用し、年間を通じて外出行事を計画する等、支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のレベルに応じたお金を所持してもらっている。買物に出かけた際に、お金を持つ機会を持ち使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族からの贈り物が届いたり大切な人からの手紙が届けば必要に応じて、読んだり代筆したりしている。また、本人が電話希望されればやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を飾ったり、居室にこたつを置いてゆっくりくつろいで頂いている。また、天窓を設置し外からの光が入るようにして、快適に過ごしてもらえるよう室温も調節している。	
			(外部評価) 木造平屋の建物で日当たりがよく、どの部屋からも季節を感じる事ができる。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者同志の交流が自然にできている。脱衣室やトイレも介助に十分な広さがある。昼の居間も利用者の休息の場に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 全室個室になっていて、個々のプライバシーが守られている。また、仲の良い利用者さんがテーブルを囲んで談笑して過ごしたり、ソファーに座ってくつろがれている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に本人さんが使いなれた小物を置いたり、アルバムや花を飾ったりして安心して過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 各居室にベッドや整理ダンスは備え付けてあるが、名前の入った表札や個人の写真、小物を自由に持ち込み、利用者一人ひとりの好みに合った居心地のよい居室づくりができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) スロープや手すりがあることで一人で庭に行かれている。また、室内も手すりを設置しているので、見守りの中、一人で自由に歩かれている。洗面台が上下することで利用者さんに合わせた高さになるようになっている。	